

# FCP若手フォーラムについて

令和6年5月29日

総合ファシリテーター  
山下安信

株式会社 フードサニテーション78

# FCP若手フォーラムについて

第1回若手フォーラム  
14:15~14:40 (25分)

1. FCP若手フォーラムファシリテーターの紹介
2. FCP若手フォーラムを楽しみ、より有効に活用するコツ
3. FCP若手フォーラム 成果物について
  - (1) チーム成果物
  - (2) 個人目標



# FCP若手フォーラムファシリテーターの紹介

## 総合ファシリテーター

株式会社フードサンテーション78  
山下 安信 氏  
(やました やすのぶ)

## アドバイザー

日本大学大学院  
神井 弘之 氏  
(かみい ひろゆき)

## ファシリテーター

ライフフーズ株式会社  
大澤 幸弘 氏  
(おおさわ ゆきひろ)

## ファシリテーター

食品安全サポート  
渡辺 敏雄 氏  
(わたなべ としお)

## ファシリテーター

株式会社シジシー・ジャパン  
岩井 弘光 氏  
(いわい ひろみつ)

## ファシリテーター

ハウス食品グループ本社株式会社  
折井 真人 氏  
(おりい まひと)

## ファシリテーター

株式会社ニッポン  
丹野 美和 氏  
(たんの みわ)

## ファシリテーター

国分グループ本社株式会社  
瀬川 恵寛 氏  
(せがわ しげとも)

## ファシリテーター

株式会社ローソン  
三森 伸二郎氏  
(みつもり しんじろう)

## ファシリテーター

ネオジェンジャパン株式会社  
堀 景太 氏  
(ほり けいた)

## ファシリテーター

株式会社アンデルセン・パン  
生活文化研究所  
大西 由美 氏  
(おおにし ゆみ)

## サブ・ファシリテーター

株式会社Mizkan Partners  
篠田 太郎 氏  
(しのだ たろう)

## サブ・ファシリテーター

三菱食品株式会社  
住田 晴慶 氏  
(すみだ はるよし)

## サブ・ファシリテーター

株式会社 SEITA  
青森 誠治 氏  
(あおもり せいじ)

# FCP若手フォーラムを楽しみ、より有効に活用するコツ



【ぜひ、みなさんの目標にして欲しいこと】

1. FCP（産官学協働のプラットフォーム）の取り組みを理解する
2. 若手フォーラムの魅力(規模)を体感し、みなさんの新しいネットワークをつくる
3. 参加メンバーとの意見交換を通して、考え方や視野を広げる
4. ワークショップを通して、個人目標を設定し、スキル※アップにチャレンジする

※スキル：自らの努力で獲得する技能や能力をいう

# FCP若手フォーラムを楽しみ、より有効に活用するコツ

## ◇若手フォーラム 趣旨・目的

- 食品関係事業の次代を担う若手スタッフが食の安全・消費者の信頼向上への取り組みを受け継いでいくことで人材育成や相互の関係づくりを持続的に支援する
- コミュニケーションのあり方、食をめぐる社会環境の変化や食の安全に対する動きや取組を学び、参加者が食の安全・信頼向上の観点から企業行動を考えることを目的に開催する

## ◇若手フォーラムへの参加により得られるスキル

- 食品産業の中のさまざまな取り組みに触れて理解する
- グループワークに参加して意見を述べる
- グループワークをリードして円滑に取り仕切る
- 自社の紹介・仕事を説明する
- さまざまな意見を取りまとめる
- 自社に学んだことを伝える、仕事に役立てる

⇒フォーラムに参加するにあたり、学びたいことや身につけたいスキル、目標等を明確にすることで、効果的にスキルを身につけ、目標達成が可能になります

# FCP若手フォーラムを楽しみ、より有効に活用するコツ

## 【よくいただく質問】

- Q1. フォーラムにどのように参加すればいいのか
- Q2. ルーチンの仕事とどう両立させればいいのか
- Q3. 自分のキャリアアップにどう役立てればいいのか
- Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは



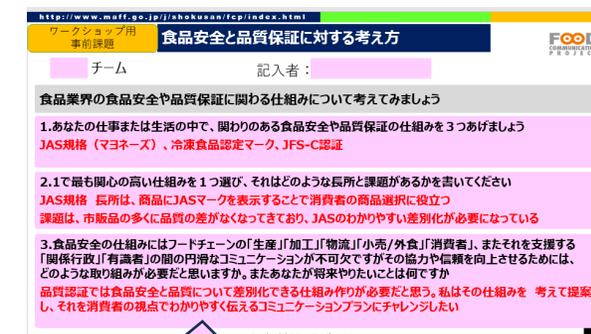
# Q1. フォーラムにどのように参加すればいいのか

若手フォーラムでご自分の視野とネットワークを広げましょう。  
主体的に参加することで、ご自身が求めているスキル（技能や能力）を伸ばし、磨いていくための機会として有効に活用できます

## 事前準備

- 事前課題にはご自分の生活、組織とその周囲、必要に応じて関係者の話やネットで調べて、テンプレートに書き込みます
- チームで決めたその回のリーダー・サブリーダーに、メールで提出します
- チームメンバーのまとめがメールで届いたら、時間があるときに目を通しましょう

## 事前課題シート



**例1.あなたの仕事または生活の中で、関わりのある食品安全や品質保証の仕組みを3つあげましょう**

# Q1. フォーラムにどのように参加すればいいのか

## 当日

- チームの中で、全員が意見を述べて、話し合きましょう
- 意見は、チームごとに事前にチームで決めたリーダー・サブリーダーを中心に話し合い、会場のテーブルにある模造紙/付箋紙などに記録していきます  
(リモートで参加の方にも、会場にいる方がサポートをお願いします)
- 最後に代表から、チームで話し合った内容を発表していただきます

## 後日

- 機会をみつけて、職場や友人にも話題を提供してみましよう  
(視野が広がり、新しいアイデアが生まれるかもしれません)



# Q 1. フォーラムにどのように参加すればいいのか

スキルを高めるためのチャレンジ例（FCP経験者の例）

1. グループメンバーを把握する（仲間を知る）
2. ワークショップのテーマを理解する（事前に情報を整理しておく）
3. 事前課題に取り組む（戦略を練り、戦術を具体化する）
4. ワークショップに参加し、メンバーと交流する（視野を広げる）
5. 協働の機会点を探し行動を考える（スキルをみがく）



## Q2. ルーチンの仕事とどう両立させればいいのか



ルーチンのお仕事を最優先させてください。そして、自分で時間を作り、事前課題に取り組み、フォーラムに参加することがとても重要です。

- みなさんは毎日、いくつも仕事をこなしていらっしゃると思います。役職に応じて、関係者や関係先と一緒に取り組むタスクフォースやプロジェクトチームに参加する機会も増えます。ルーチンの仕事とは、別に取り組む仕事も生まれます。
- 緊急事案や優先課題が発生した場合には、仕事全体を見渡して緊急性や重要性からバランスをとって取り組むことが要求されます。
- 若手フォーラムは、将来、みなさんにとって重要な経験になります。できる限り積極的に参加いただき、仕事に多様に対処する経験に是非チャレンジしてください。

## Q3. 自分のキャリアアップにどう役立てればいいのか

キャリアアップとは、「より高い能力を身につけて、経歴を高めること」をいいます。次代を担う若手スタッフのみなさんが1つ1つご自分の努力で経験を積む中で、スキル（能力や技能）を高め、磨いていくことでキャリアアップが達成されます。またそれは組織の成長と社会の進化につながります。



- FCP若手フォーラムでは、みなさんに是非、チャレンジしたい目標とスキルを設定していただき、6回のワークショップと活動報告会（チーム成果物）、そして個人目標（個人成果物）を通してチャレンジしてみてください。経験豊富なファシリテーターがみなさんをお迎えし、キャリアアップを応援します。

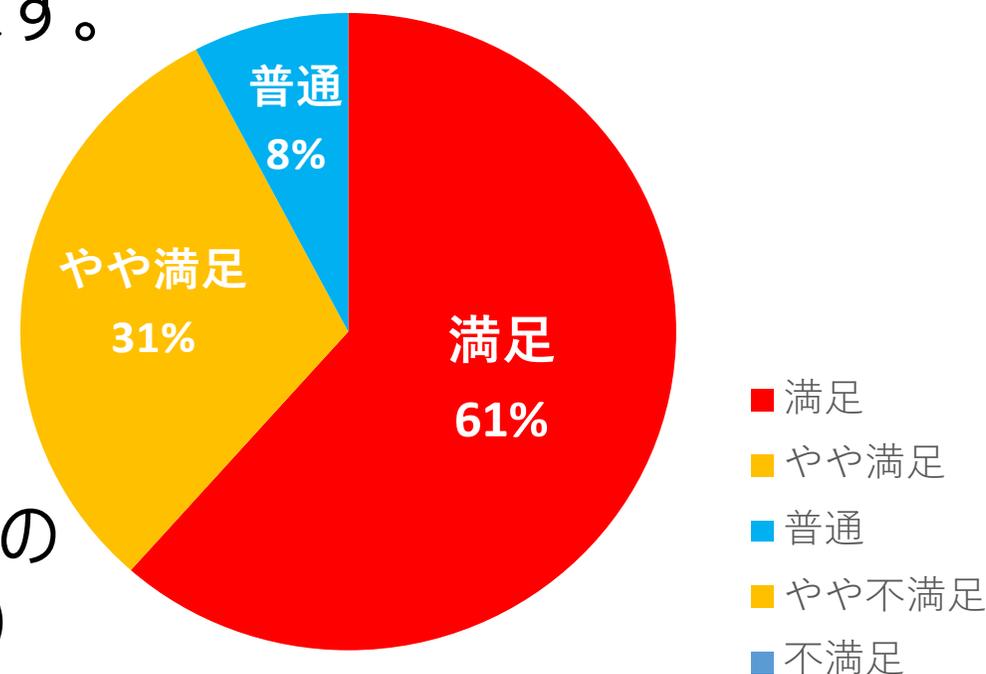
## Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

FCP若手フォーラムは、参加者のみなさんに個人目標を設定いただき、もし可能ならば上司や職場の方々と共有し、フィードバックを受けることで、1年間の成長の「見える化」に取り組みました。

- ご参加の企業・団体（上司）へのアンケート調査では、9割以上の方から「満足」「やや満足」の評価をいただいています。

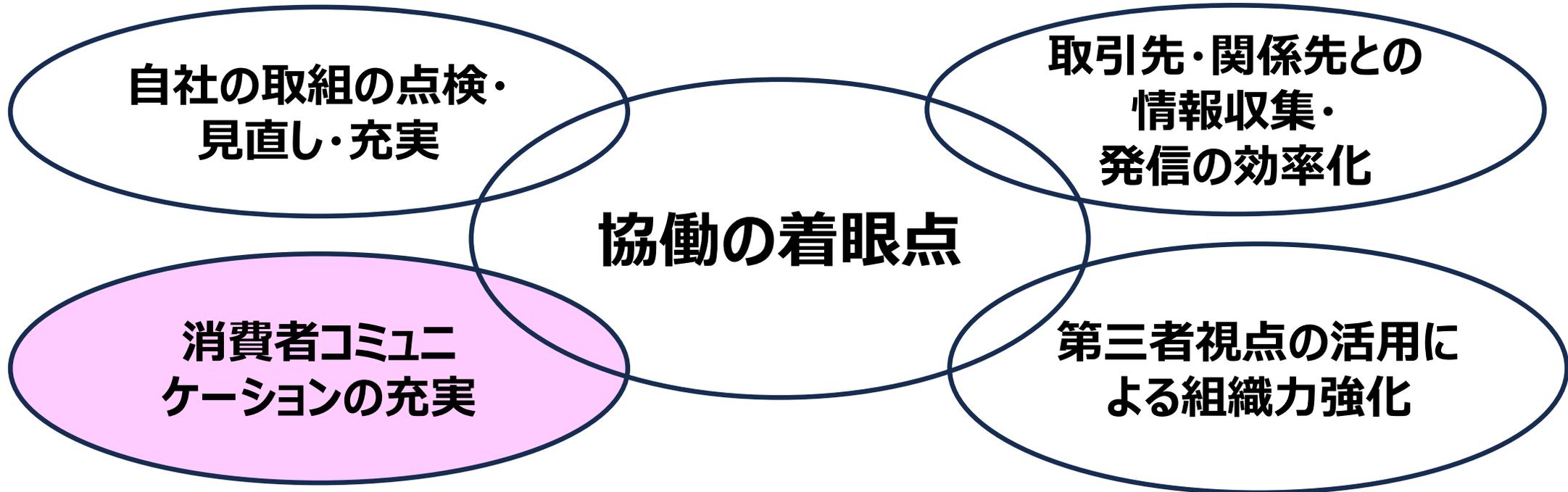
### 若手フォーラムへの満足度

（ご参加いただいた企業・団体（上司）へのアンケート調査より 令和4年若手フォーラム）



## Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

- FCPでは協働の着眼点のキーワードとして、「情報収集」「自社取組の点検」「第三者視点の活用」「消費者コミュニケーション」があります。若手フォーラムへの参加を機会に、FCPとそのツールを見てみましょう。



## Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは



- また、若手フォーラムが提案するチャレンジの1つに、リーダーシップがあります。そこには一般的な次のスキル（能力）が要求されています

リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
専門性と汎用性	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>職務の分野を深い知識と経験で精通する能力とさまざまな方面で対応できる知識と経験をもって総合職や管理職に役立てる能力</b></li></ul>
コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>相手の立場で考え、スムーズに意思疎通できる能力</b></li><li>● <b>どのような立場の相手ともコミュニケーションを取って信頼関係を築き、仕事に対する価値観や方向性を近づけていく能力</b></li></ul>

# Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
傾聴力	<ul style="list-style-type: none"><li>● チームワークを高めるために、異なる意見を持つ相手との会話を進めお互いを理解していく能力</li></ul>
交渉力	<ul style="list-style-type: none"><li>● 利害関係者とお互いが納得する結果が出せるような話し合いができる能力</li><li>● 時には仲介役として双方の意見を聞き、それぞれが求める対応を把握し、互いが納得できるゴールまで導くことができる能力</li></ul>
問題解決能力	<ul style="list-style-type: none"><li>● 実務で起きた問題を解決する責任能力</li><li>● これまでに得た知識や思考力、実務経験、判断力を大いに活用し、困難な状況においても解決策を示すことができる能力</li><li>● 社会や組織の仕組みを深く理解し失敗や反省を重ねる経験も重要になる</li></ul>

# Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
主体性	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>自ら重要な決断を下し、設定した目標を達成する能力</b></li><li>● 職務におけるニーズを察知し、自発的に取り組むことができる能力</li><li>● <b>必要な下調べやチーム編成、プラン策定などに自発的に取り組むこと</b>で、プランに問題が発生した場合も自分で解決していくことができる</li></ul>
誠実さ・信頼性	<ul style="list-style-type: none"><li>● <b>仕事上の付き合いや決断で常に誠実さをもって行動</b>することで、上司や同僚、部下、関係先との信頼関係を構築していく能力</li><li>● <b>期限を厳守したスケジュール管理</b>と、失敗をしたときも、<b>謙虚な姿勢で自らの責任を認めることができる能力</b></li></ul>

- もし可能ならば上司や職場の方々からは参加者（部下）には若手フォーラムで身につけたスキルを仕事の中で活用していく努力を評価いただき、またみなさまのご経験からのアドバイスをお願いします。

# FCP若手フォーラム 成果物について

## FCP若手フォーラム 最終成果物

- チーム成果物（第5回～活動報告会までで資料作成）  
フォーラム内で学んだことを踏まえチームでテーマを決め、活動報告会で発表します  
※詳しくはワークショップの中でご説明します
- 個人成果物
  - ① 目標設定（第1回事後課題）  
フォーラムで学びたいこと、自身の目標等を決め、参加しましょう
  - ② 振り返り（活動報告会事後課題）  
フォーラム全体を振り返り、目標に対する評価や仕事に活用すること、今後のビジョン等をまとめましょう

## ◇個人成果物の取り扱い

- ① **目標設定を 第1回フォーラム開催後に**
- ② **振り返りを 全回終了後に作成し、FCP事務局にご提出いただきます**

➤ 個人成果物は、活動報告会での発表等、一切公表はいたしません  
(フォーラムの企画や運営の参考にさせていただきます)

## ◇記入内容

### ① **目標設定 (第1回事後課題)**

- ・チームの年間目標 (是非、チームで取り組みたい目標)
- ・個人の年間目標 (若手フォーラムで学びたいこと、身につけたいスキル等)
- ・ワークショップに取り組むにあたってのプラン
- ・若手フォーラムでの学びと経験のフィードバック

# 令和6年度 FCP若手フォーラム 個人成果物①



チーム名		氏名	
◆若手フォーラム・チームの年間目標について			
①目標		②振り返り	
◆若手フォーラムの個人の年間目標について			
①目標		②振り返り	
◆若手フォーラム・ワークショップにどのように取り組んでいきますか			
①目標		②振り返り	
◆若手フォーラムの学びや経験をどのように職場にフィードバックしていきますか			
①目標		②振り返り	

チーム名

氏名

## 目標設定

1. 若手フォーラム・チームの年間目標について
2. 若手フォーラムの個人の年間目標について
3. 若手フォーラム・ワークショップにどのように取り組んでいきますか
4. 若手フォーラムの学びや経験をどのように職場にフィードバックしていきますか

個人目標（1枚目）

提出期限 6月19日（水）

提出先 FCP事務局

## ◇記入内容

### ②振り返り（活動報告会事後課題）

- ・①で立てた目標に対する評価（5段階評価、頑張った点・苦労した点）
- ・若手フォーラムで学んだことを自身の業務にどう活かすか
- ・今後頑張りたいことは何か、（課題、目標、キャリア等）



若手フォーラムに参加するにあたり、明確な目標を持って参加し、フォーラム後にはしっかりと振り返りを行うことで自身の成長につながります(\*'▽')

自社で業務報告や成果報告をする際にもお使いください！

# 令和6年度 FCP若手フォーラム 個人

自己評価は1～5の5段階で評価してください  
 ※5:身についた 4:やや身についた 3:どちらともいえない  
 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった



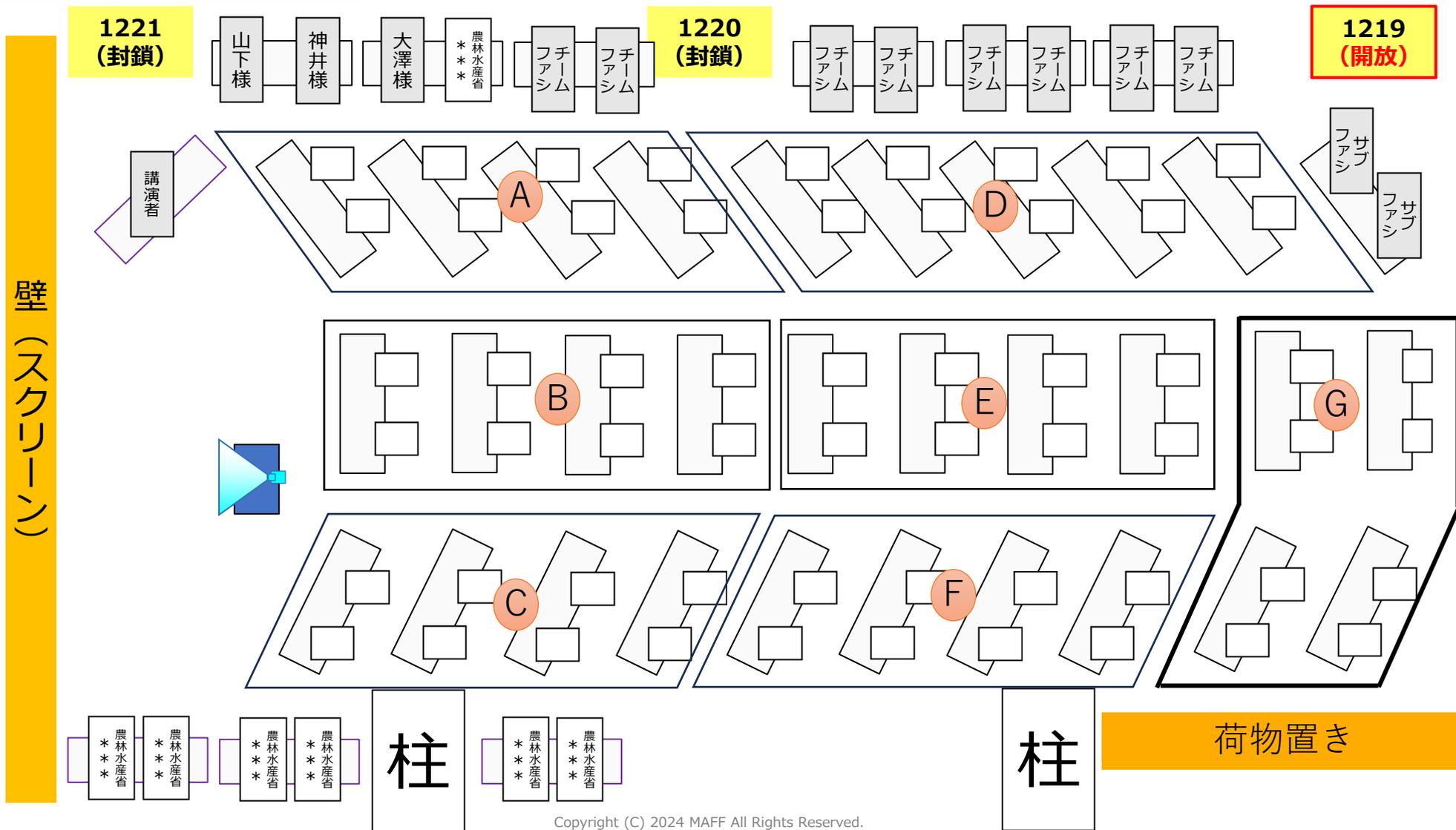
◇ 1年間を振り返り、会得できたと思うスキル、当初の目標に対しての成果等を確認しましょう

スキル	自己評価	頑張った点/苦労した点
FCP活動や取組についてを理解する	1 2 3 4 5     0         3	
グループワークに参加して意見を述べる	1 2 3 4 5     0         3	
グループワークをリードして取り仕切る	1 2 3 4 5     0         3	
自社の仕事を説明する	1 2 3 4 5     0         3	
さまざまな意見を取りまとめる	1 2 3 4 5     0         3	
自社に学んだことを伝える	1 2 3 4 5     0         3	

◆ 若手フォーラムでの経験を踏まえこれからチャレンジしたいと思うこと（課題、今後の目標・キャリアプラン等）

# FCP第1回若手フォーラム 会場レイアウト

## (1) 講演時



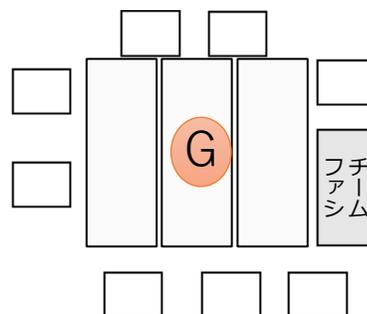
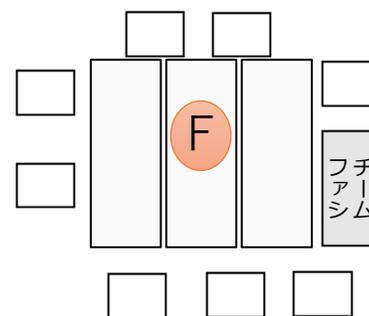


# FCP第1回若手フォーラム 会場レイアウト

## (2) WS時

前日にセッティング済

1218  
(開放)



窓

# 第1回若手フォーラム ワークショップ<sup>o</sup>1（チーム内交流）

令和6年5月29日

総合ファシリテーター  
山下安信  
株式会社 フードサニテーション78

# 第1回FCP 若手フォーラム

## テーマ：「食」への信頼を創る

### 【目的】

1. FCP（産官学協働のプラットフォーム）の取り組みを知る
2. 若手フォーラムメンバー全員と交流し、若手フォーラムの魅力（スケールの大きさ）を体感する
3. 若手フォーラムメンバー全員との意見交流の手順を体験する

### 【進め方】

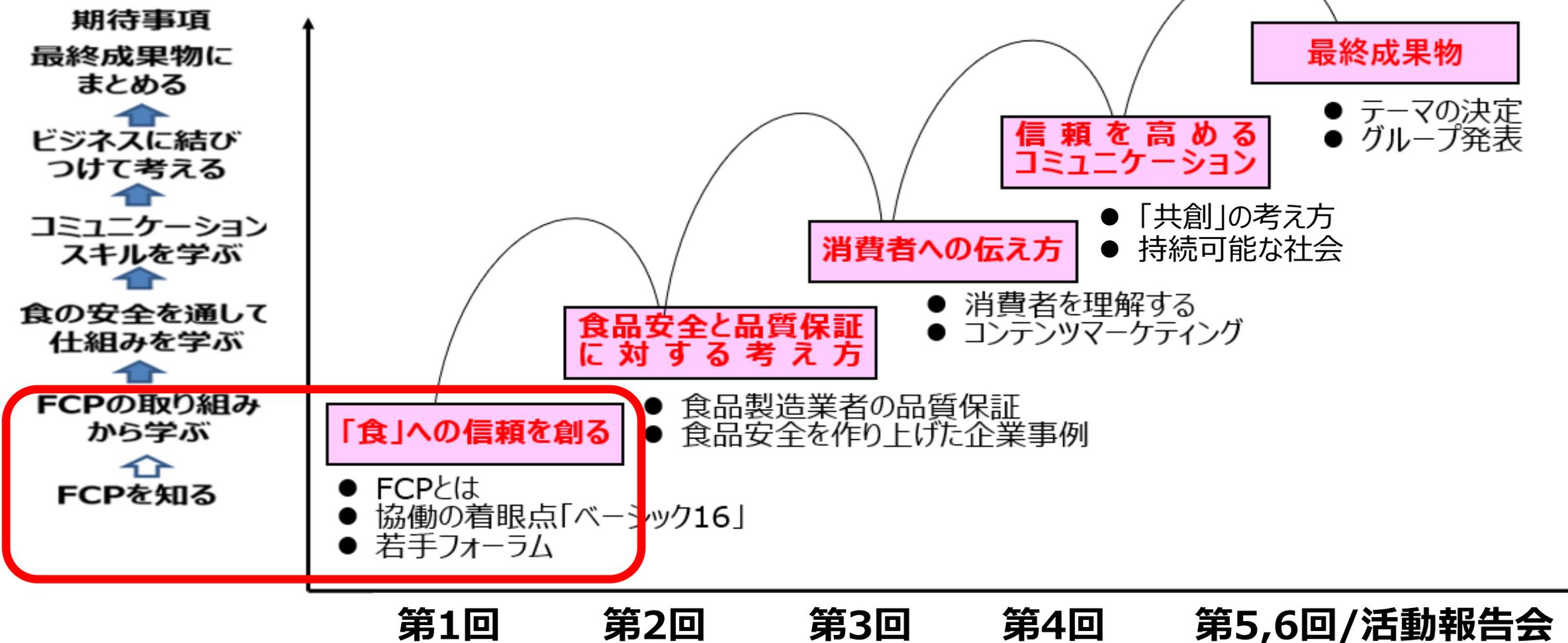
- チームごとの交流・発表  
休憩
- 第2回WS説明
- 全体交流（名刺交換会）



# 第1回FCP 若手フォーラム

## 令和6年FCP若手フォーラム

### スキルアップロードマップ



# 第1回FCP 若手フォーラム

## チームごとの交流

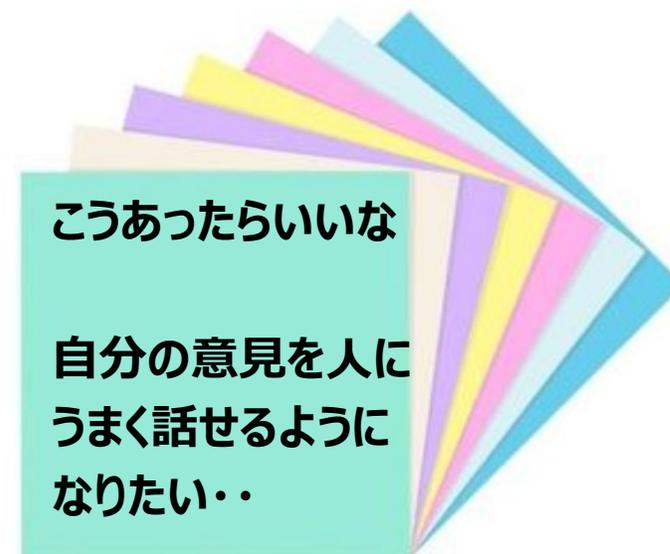
自己紹介（1人1分程度）：10分

自由に意見交換：30分

- 参加のきっかけ
- FCPで興味をもったこと
- FCPで話し合いたいこと
- 社内／取引相手先／消費者とのやりとりで困ったこと
- こうあったらいいなと思うこと
- 最近面白いと感じていること
- 今、やり方を模索していること など

**付箋紙に書いて模造紙に適宜貼り付けていく**

※発表者、第2回目のリーダー・サブリーダーを決定しておく



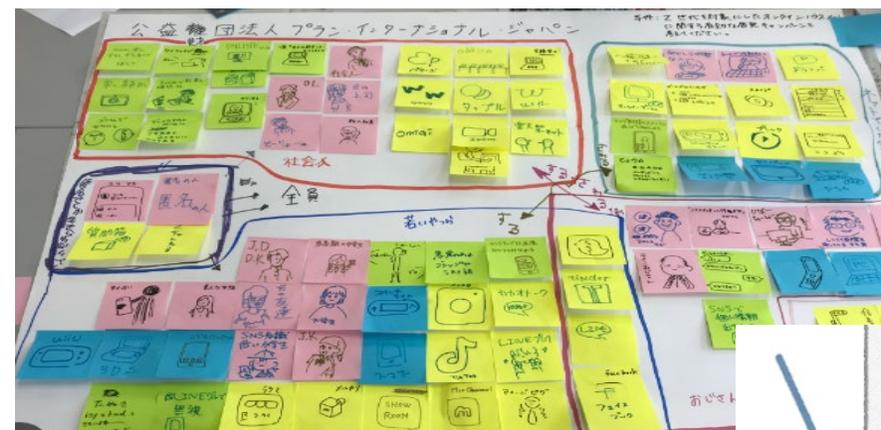
# 第1回FCP 若手フォーラム

## チームごとの交流

チーム発表 : 各チーム3分

**チームで出た意見・考えを全体に共有する**

**発表は模造紙を有効に活用する**



# FCP第1回若手フォーラム 会場レイアウト

## (3) 発表時①



# FCP第1回若手フォーラム 会場レイアウト

## (3) 発表時②



## 第2回若手フォーラム 事前課題

令和6年5月29日

総合ファシリテーター  
山下安信

株式会社 フードサニテーション78

# 第2回若手フォーラム 事前課題



## 第2回若手フォーラム（6月）

テーマ：食品安全と品質保証に対する考え方

《食への信頼を創るための（これからの）品質管理、品質保証について考える》

講演1	品質保証のための規格認証について	
講演2	食品安全を上げた企業事例	

ワークショップのねらい：

- 食品業界における食品安全や品質保証に関わる仕組みとその背景を理解する
- 参加者の所属先や職務から、その仕組みとの関わりと、自分の考えや意見を話し合う
- 参加者が直接/間接的に関わるフードチェーンの中で、どのように協力しまたは支援することで消費者に対する食の安全が確保できるのかを話し合う

チーム

記入者：

## 食品業界の食品安全や品質保証に関わる仕組みについて考えてみましょう

1. あなたの仕事または生活の中で、関わりのある食品安全や品質保証の仕組みを3つあげましょう

2. 1で最も関心の高い仕組みを1つ選び、それはどのような長所と課題があるかを書いてください

3. 食品安全の仕組みにはフードチェーンの「生産」「加工」「物流」「小売/外食」「消費者」、またそれを支援する「関係行政」「有識者」の間の円滑なコミュニケーションが不可欠ですがその協力や信頼を向上させるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。またあなたが将来やりたいことは何ですか

X チーム

記入者：海野 めぐみ

## 食品業界の食品安全や品質保証に関わる仕組みについて考えてみましょう

1.あなたの仕事または生活の中で、関わりのある食品安全や品質保証の仕組みを3つあげましょう

MSC (Marine Stewardship Council : 海洋管理協議会) 認証、  
ASC (Aquaculture Stewardship Council : 水産養殖管理協議会) 認証、  
MEL (マリン・エコラベル・ジャパン) 認証

2.1で最も関心の高い仕組みを1つ選び、それはどのような長所と課題があるかを書いてください

MEL認証：水産資源の持続性と環境に配慮している事業者（漁業・養殖業）を第三者が審査し認証する制度で、日本初の水産系認証であり、コストが最小限で済むほか、日本の漁業実態を反映している。課題は消費者の認知度が低いため、商品選択の指標にはなりにくい

3.食品安全の仕組みにはフードチェーンの「生産」「加工」「物流」「小売/外食」「消費者」、またそれを支援する「関係行政」「有識者」の間の円滑なコミュニケーションが不可欠ですがその協力や信頼を向上させるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。またあなたが将来やりたいことは何ですか

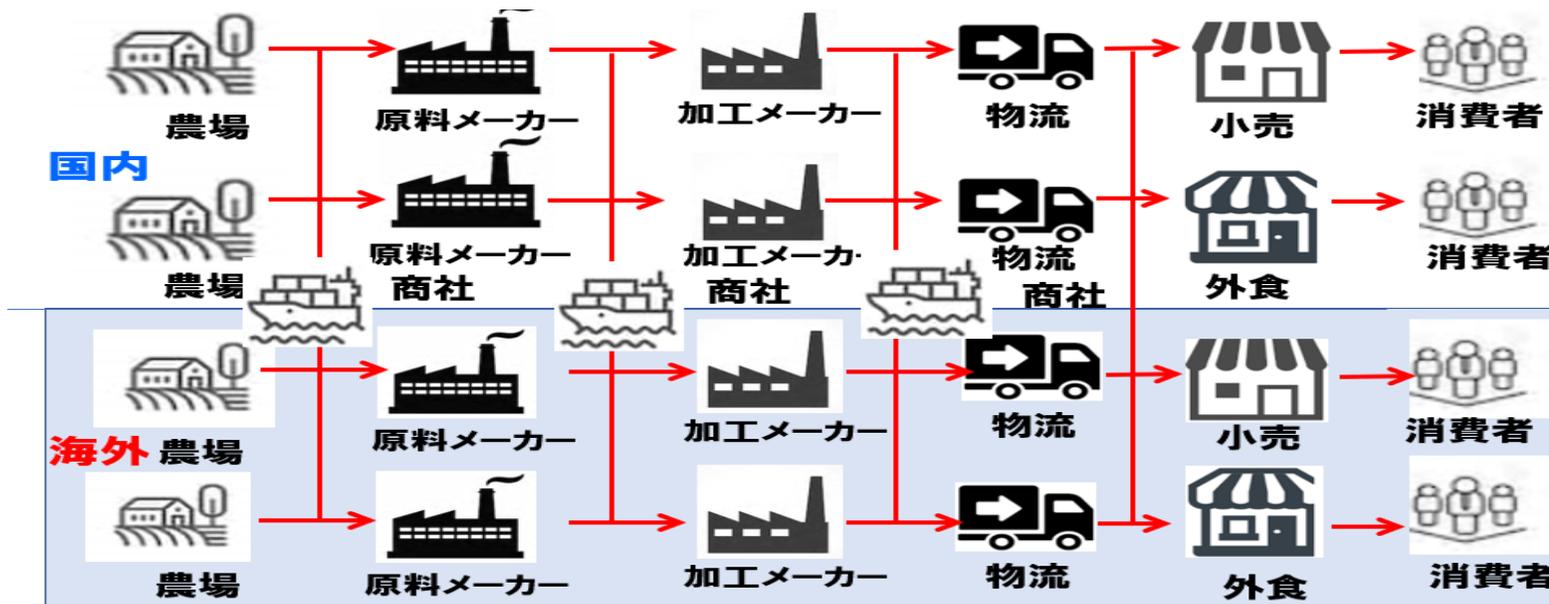
まずは、認証の認知度を高める取り組みが必要。認証取得の商品の品質向上も。将来的には、認証取得する漁業者の支援をしていきたい。

# 第2回若手フォーラム 事前課題

## 参考

「認証の仕組み」に取り組む背景

1. フードチェーンの広域化と集約化が進行する中で、食品の品質・衛生をはじめさまざまな分野で「**効率化**」への対応が、加速度的に要求されている
2. また、多様化の中で、持続可能な社会に対応するための、さまざまな環境や人権、配分など社会的責任を果たすための目標とその具体的行動を、「**共通の指標**」と「**客観的な視点での評価を受ける**」仕組みが整備されつつある



# 第2回若手フォーラム 事前課題



**参考** 「認証の仕組み」の例 「共通の指標」をもとに「客観的な視点での評価を受ける」ことで  
認証する仕組み

分類	仕組み	主な目的・機能	対象
規格・表示	JAS規格（有機JASなど含む）、 保健機能食品、食品表示基準、 公正マーク	消費者の商品選択、商品の 差別化、健康被害の防止、 品質の保証・確保	生産、食品製造、販売
スキーム	ISO認証、FSSC22000、JFS規格、 SQF、GFSI	第三者の認証、	食品製造、物流、販売、 外食
食品衛生	HACCP、GAP、食品衛生法（営業 許可等）、牛トレサビリティ	衛生管理の手法、健康被害 の防止、公衆衛生の向上	生産、食品製造、物流、 販売、外食
環境認証	MSC認証、レインフォレスト、RSPO 認証、ASC認証、MEL認証（マリン エコラベル）	持続可能な開発、差別化、 消費者の商品選択	生産、食品製造、販売、 外食

# 第2回若手フォーラム 事前課題



**参考** 「認証の仕組み」の例 「共通の指標」をもとに「客観的な視点での評価を受ける」ことで  
認証する仕組み

分類	仕組み	主な目的・機能	対象
宗教的認証	ハラール認証、コーシャ認証	宗教的慣習、信者の商品選択	生産、食品製造、物流販売、外食
業界認証	冷凍食品認証マーク、業界認証マーク	品質の保証、消費者の商品選択	食品製造、販売
地域認証	GI、産地調査	地域産業の支援、生産地管理、原料原産地表示	生産、食品製造、販売
消費者保護	製造者責任法、東京都消費者条例	消費者保護	食品製造、販売、外食
自社認証	自社認証、製品登録制度	商品管理	食品製造、販売、外食

# 第2回若手フォーラム 事前課題



## 参考 「認証の仕組み」の例 「共通の指標」をもとに「客観的な視点での評価を受ける」ことで 認証する仕組み

	認証の仕組み	管理団体	目的	内容
	ISO認証	国際標準化機構	品質、環境、情報セキュリティ、食品安全、労働安全衛生などの国際標準規格の取組みに対して認証する	事業者は目的に合わせて、規格について認証を受ける
	JIS規格	日本産業標準調査会	日本の国家標準の1つ。主務大臣が日本産業規格の答申を受けて制定する。土木および建築など工業品を中心に19部門に設けられている	製品がJISへの適合の認証を受けたときに、製品そのもの、製品の包装、製品の容器または製品の送り状に付することができる
	JAS（日本農林規格）	日本農林規格協会	日本の国家標準の1つ。農林物資の規格化等に関する法律に基づく、農・林・水・畜産物およびその加工品の品質保証の規格になる	食品表示など該当商品の購入の際の判断材料や取引の手段として活用されている
	有機JAS（オーガニック認証）	農林水産省	農薬や化学肥料などを制限し自然界の力で生産された農産物、加工食品および畜産の認証	有機食品のJAS規格に適合した生産が行われていることを登録認定機関が検査し、認証する
	保健機能食品	消費者庁	食品表示基準で栄養成分の機能および特定の保健の目的が期待できる旨を示す用語の表示が禁止されており、所定の根拠、条件をもとに保健機能食品の表示が認められる	特定保健用食品（有効性、安全性審査と消費者庁の許可を受ける）、栄養機能食品（国が定めて下限・上限値の基準に適合する）、機能性表示食品（機能性関与成分に保健の目的が期待できる旨を表示する）に分類される

## 参考 「認証の仕組み」の例 「共通の指標」をもとに「客観的な視点での評価を受ける」ことで 認証する仕組み

	認証の仕組み	管理団体	目的	内容
	MSC(Marine Stewardship Council )認証	海洋管理協議会 (英国)	水産資源と環境に配慮し、適切に管理された、持続可能な業業に対する漁業認証	厳格な規格に適合した漁業で獲られた持続可能な水産物にのみ認められる証。MSCラベル、通称「海のエコラベル」
	GI(地理的表示 Geographical Indication)	農林水産省	産品の名称 (地理的表示) を知的財産として登録保護する	登録産品の地理的表示と併せて真正な地理的表示産品であることの証を受ける
	レインフォレスト	レインフォレストアライアンス (RA)	市場メカニズムを利用して、森林伐採や環境破壊の要因となる木材生産、農地拡大、牧場経営などに歯止めをかける	コーヒー、紅茶、チョコレート、バナナなどを対象に、生産農園の持続可能性、その作物を輸入、加工する各企業の生産流通の方法やトレーサビリティの確保により認証 (マークの使用) を受ける
	SQF(Safe Quality Food)	FMI(Food Marketing Institute) (米国)	食品の安全衛生とともに、食品の品質向上を目的とする国際規格	HACCPによる衛生管理とQMS (品質マネジメントシステム) に関する規格で構成される

**第1回若手フォーラム  
ワークショップ2  
（チーム間交流（名刺交換会））**

令和6年5月29日

総合ファシリテーター  
山下安信  
株式会社 フードサニテーション78

# 第1回FCP 若手フォーラム

全体交流 名刺交換会 : 40分

ルール **チーム単位で 7ラウンド (総当たりです)**

1チームはグループ内で、他はチーム単位で他チームと名刺を交換。  
また、FCP事務局は、各回、グループ内で交流されているチームに加入し、ご挨拶させていただきます。

- **ご挨拶 (一人) 30秒 (会社、名前、一言程度)**

30秒ごとにアナウンス。次の方とのご挨拶に移る

ローテーション (1ラウンド~7ラウンド) **組合せ 左のチームのテーブルの周囲に移動**

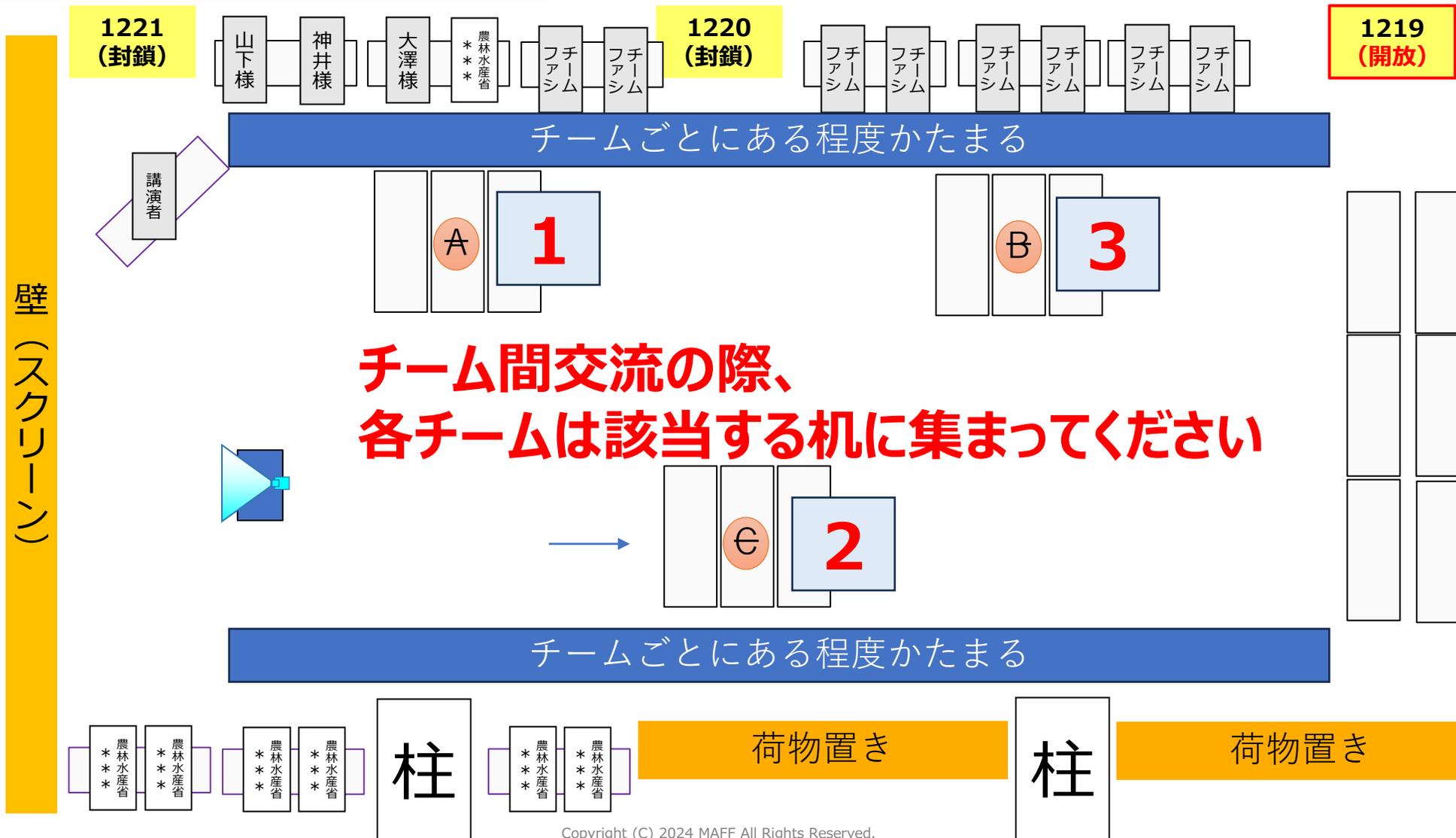
	時間	チーム内	チーム間		
			1	2	3
1ラウンド	5分	A	B-G	C-F	D-E
2ラウンド	5分	B	C-G	D-F	A-E
3ラウンド	5分	C	D-G	E-F	A-B
4ラウンド	5分	D	E-G	A-D	B-C
5ラウンド	5分	E	F-G	A-F	B-D
6ラウンド	5分	F	A-G	B-E	C-D
7ラウンド	5分	G	B-F	C-E	A-C



# FCP第1回若手フォーラム 会場レイアウト

## (4) 名刺交換会

椅子は両端へ&机の位置を調整



# 第1回FCP 若手フォーラム

## 全体交流

### 1ラウンド～7ラウンド

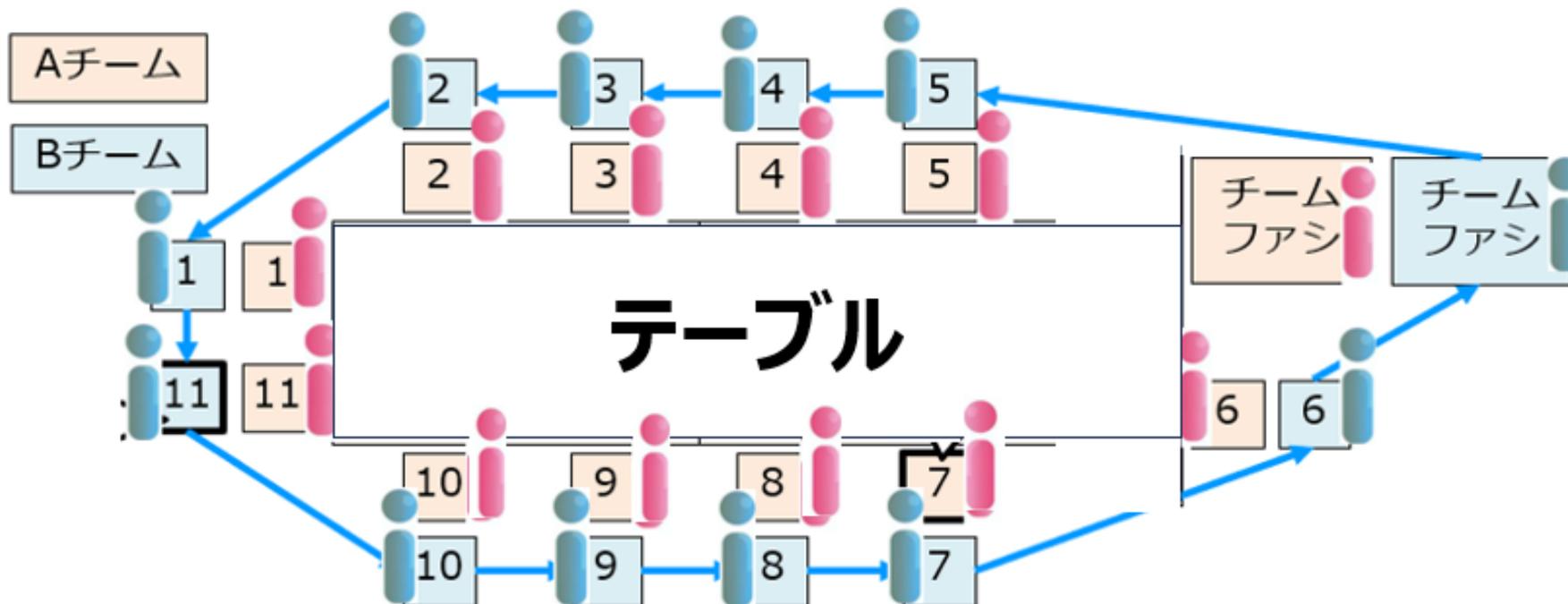
チーム内で名刺交換

他チームとの名刺交換



1列に並び、机の周りを囲みます

チーム単位で移動し、移動したチームメンバーが、机の周りをアナウンス毎にまわります



# 第1回FCP 若手フォーラム

## (参考) 名刺交換のやり方

- 両手で扱う
- 文字が隠れないように端を持つ
- 折り曲げたり、汚したりしないようにする
- 相手の名刺は胸より上の位置で扱うように心掛ける

## ファシリテーターからのアドバイス

- あとで名刺の片隅に聞いたことをメモしておくと思出しやすい
- 特に同業の参加者とは面識をもっておくこと



## 名刺交換会

### 各チーム（メンバー） + ファシリテーター

- (A) 参加者（8） + 渡辺さん + 住田さん
- (B) 参加者（8） + 大澤さん + 篠田さん
- (C) 参加者（8） + 折井さん
- (D) 参加者（9） + 丹野さん
- (E) 参加者（8） + 瀬川さん + 神井さん
- (F) 参加者（8） + 山下さん
- (G) 参加者（8） + 堀さん

# FCP若手フォーラム

令和6年 5月29日

## 1. 提出物

### (1) 個人目標 (2枚のうち1枚)

提出期限 6月19日 (水)

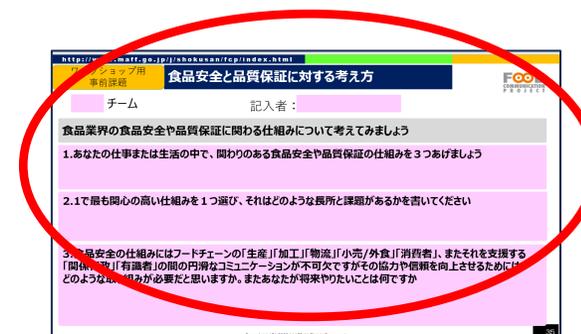
提出先 FCP事務局



### (2) 第2回事前課題 (1枚)

提出期限 6月19日 (水)

提出先 チームリーダー



## 2. 第2回若手フォーラム

6月27日 (木) (予定)